

第4学年よごふるさと科（総合的な学習の時間）学習指導案

日時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学級：第4学年〇名

場所：4年教室

多目的室（展示室）

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名

「しずくのゆくえ」

「しずく」とは、子ども自身。雨の一滴は丸くなって、周りのものを映し出す。地面に落ちたしずくは、地上の目に見えるもの間を流れたり、地下水となって深く潜ったりする。また、気体となって、大気中に浮かぶこともある。集まって川となり、やがて広い海に出ていくだろう。

しずくのように子どもたちが、いろいろなものや人に出会う過程で自分自身の認識を変容させ、友達や多くの人と共同しながら、外の世界に働きかける姿を期待している。

2 単元の目標

自分たちが住む余呉の自然環境の特徴について調べたり、自然環境に関わる活動に協働して取り組んだりすることを通して、余呉の自然環境の特徴やよさ、それを支える人々の努力や工夫、自然と共存していくことの素晴らしさについて理解し、自然環境の特徴を生かしながら、自然を生かした楽しみを見出したり、環境を守っていくために自分たちは何ができるかを考えるとともに、余呉の自然環境とのつながりを意識しながら行動したり、生活したりできるようにする。

3 単元について

（1） 児童の実態

4名の単級の学級であり、こども園時代から共に生活を送ってきており、お互いをよく知り合った仲間である。特に特別支援学級の児童のことをよく理解し、安心して学級へ入れるよう日頃から声掛けをし接することのできる児童たちである。特別支援学級の児童も交流学級の児童たちと一緒に学習する「よごふるさと科」の学習を楽しみにしており、友達の意見を聞いたり、助言を受けたりしながら多くのことを学んでいる。

クラスの児童は三世家族も多く、幼いころから地域の行事に参加したり、身近な自然環境の中で生き物採取を行ったりしてきている。しかしながら、余呉の自然を十分に知っているとは言えない。余呉町の9割を占める山に対しての認識も高いとはいえず、人がどのように山や森と関わりをもっているのかというあたりはほとんど知らない状態である。低学年での生活科で、余呉の町探検を通して、余呉の歴史的な名所、生き物が多く採取できる川や山、有名な店等、大好きな余呉をたくさん発見し地域の方々に発信してきている。3年生の「よごふるさと科」では、余呉の伝統文化について、「地域に残る祭」について調査し、実際に祭りの踊りを体験してきている。古き伝統を大切に受け継いでいる余呉の人々の願いや思いを学び、余呉の魅力をたくさん感じ取ってきた。

本単元の学習を通して、自分たちの住む余呉を見直し、更に余呉のすてきをもっと広げていきたいという思いをもたせたい。

（2） 教材について

よごふるさと科では、9年間を通して余呉の魅力を追究し「住み続けたい余呉のまち」をつくりあげていく。この学習で特に大切にしていきたい視点は以下の3点である。

① 余呉のよさや課題への気づき

この視点では、体験や活動調査を通して、課題を追究し、解決する資質や能力を身に付けさせたい。

② 余呉の魅力や課題を学び、まとめ、伝える力

この視点では、余呉の自然、文化、歴史、暮らし、産業に関わり、自ら課題を見つけ主体的に考える力を身に付けさせたい。

③ 地域の方など様々な人からの学び

この視点では、様々な考え方、人の生き方に触れ、自己の生き方や将来について考えさせたい。

本単元では、4年生での総合的な学習を理科「雨水のゆくえと地面のようす」、社会科「くらしをささ

える水」の学習に関連させながら、「余呉の自然」に焦点を当て進めていく。余呉の自然の特徴に気付かせ、余呉の自然を生かした楽しみを見出したり、自然と共存していくことについて、自分なりの考えを深めたりさせたい。

(3) 指導について

4年生では、「みずすまし調査隊」や「やまのこ学習」の環境学習が位置づけられている。これらの学習をリンクさせ、本学年では、自然環境を通して余呉の魅力を学ばせていきたい。

1学期は、水生生物調査の学習を通して、余呉の川に注目してきた。他の地域（琵琶湖沿岸や淀川下流）と比較することで、余呉の水環境が優れていることが分かった。しかし、きれいな水だから必ずしも生き物たちに良いということではないことも分かってきた。生物たちには「それぞれの生態に合った住みよい環境が必要である」ということもみんな確認をした。そして、そのためには、自分たちは何ができるかを考えてきた。ごみを捨てない、汚い水を流し込まないといった意見のほかに、どんな環境が生き物に相応しいのか更に生態について調べたい、自分たちの調査の結果を多くの人たちに発信して知ってもらいたい等の意見が出てきた。これらの学習を受けて、2学期は学習の舞台を川から森に移す。本単元では、自然の恵みや魅力を体感し、自然と共存していくことの素晴らしさに気づける様、具体的な体験活動を取り入れたり、山の仕事に携わっている方々の生の声を聞いたりする機会を設けたい。

(4) 児童が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

<p>【「読み解く力」の二つの側面】</p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>【「読み解く力」の三つのプロセス】</p> <p>① …発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す</p> <p>② …分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する</p> <p>③ …再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
--	---

発見・蓄積のプロセス

特にAの側面では、体験したことや知ったことを手掛かりに、課題意識をもって取り組んでいこうとして情報を「発見・蓄積」する姿を目指す。そのために、体験活動を重視する。児童が地域の自然環境を対象とし、五感を使って十分に対象と向き合うことによって、課題意識をもつことにつなげたい。また、iPadに観察活動で気づいたことを写真や動画で撮影、保存しておくことで、必要な時に情報を取り出すことができるようにする。

さらに、地域で自然に関わる仕事や取組をしている人を、ゲストティーチャーとして情報を取り出す対象とする。児童が自然に関わる情報を広く集めることから、課題意識をもつことができる環境を整える。

分析・整理のプロセス

特にBの側面では、地域の環境を「分析・整理」し、根拠を明確にした自分の考えをもつ姿を目指す。そのためにまず、余呉川の水が流れていく下流の地域の学校と同時双方向型のオンラインでの交流を行い、上流、中流、下流において、各校の児童が収集した情報を手掛かりとして河川の様子を比較・検討する。さらに、地域の山で活躍されている方や特産物に関わっている方にも幅を広げて情報を集め、iPadに蓄積しておく。共通した課題意識をもつ児童が交流を進める際にそれらを活用し、自分の根拠を明確にできるようにする。

再構築のプロセス

特にAの側面では、友達の発表を生かして見出した、余呉のすてきを広げるために自分にできることを考える姿を目指す。そのために、余呉のすてきをどのようにして広げるのか、広める対象を明確にして考えを「再構築」することを目指す。また、余呉のすてきを単元の終始で個々に振り返ることにより、学びの変容の自覚にもつなげたい。

本時は単元の終末の授業となる。単元全体の「再構築」と捉えた時に、これまでの学習の足跡が生かされた「再構築」としたい。そのために、学習の足跡を掲示したり情報をiPadに蓄積したりしておくことで、学びをつなげていくことができるようにする。

また、単元を通して各教科で学んだことを自在に活用したり、使いこなしたりしながら探究することができるように、1学期からの学習の足跡が見えるように掲示しておく。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 自分たちの住む余呉の自然環境の特徴やよさを理解するとともに、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付いている。</p> <p>② 余呉の自然環境の状況を捉えるために、目的に応じた方法で必要な情報を収集している。</p> <p>③ 余呉の自然環境と自分たちの生活との関連についての理解は、地域の人々との関わりや体験活動を通して探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 余呉の自然環境とのつながりについて、関心をもとに課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。</p> <p>② 余呉の自然環境をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。</p> <p>③ 余呉の魅力を広く発信することについて、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な方法を決定している。</p> <p>④ 余呉の魅力を広く発信するために、自分の考えを表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。</p>	<p>① 余呉の自然環境に関わる目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。</p> <p>② 自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。</p> <p>③ 自分と自然環境や地域の人々等とのつながりに気付き、地域のために自分たちにできることを考えようとしている。</p>

5 指導と評価の計画（全26時間）

※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動・⇒指導上の留意点	知	思	態	評価方法
一	1 2	学校の裏山の林道を歩き、発見したこと、気づいたことをみんなで共有し、課題を設定する。 ⇒実際に山や川を歩き、自然の恵みをたくさん体感できるようにする。どうしてだろう？もっと調べたいという意欲をもって探究できるように体験から得た感動や驚き・疑問を大切に			① ①	記録シート 行動観察 発言
	3 4	くらしを支えている水がどこから流れてきているのかについて考えることを通して、大切な資源であることを学ぶ。 ⇒社会科「くらしをささえる水」と理科「雨水のゆくえと地面のようす」と関連させて学習を進める。	①			ノート 社会科テスト
	5 6 7 8	余呉の川でフィールドワークを行い、上流と中流の比較をしながら水環境について調べる。 ⇒水生生物調査等、実際に子どもたちが体験しながら収集した情報をもとに、川の水質や川環境について考える。	②	②		調査シート 行動観察
	9 10 11	他の地域（琵琶湖沿岸や淀川下流）と比較しながら、余呉の水環境の特徴やよさについて知り、自分たちには何ができるかを考える。 ⇒zoomで交流したびわ北小学校の調査結果や、生物多様性センターの職員の方の話をもとに、余呉の川と琵琶湖沿岸、淀川下流部の水環境を比較することで、それぞれの特徴を整理できるようにする。 ⇒自分たちができることについて、付箋紙を使って交流し、グルーピングをすることを通して、整理していく。さらに友達の意見を聞いて考えたことや共感したことも付箋に書き、グルーピングマップに追加していくように促す。		③	②	ノート 発言 記録シート ノート振り返り 発言 付箋書き込み

二	12 13 14 15	山の仕事や、山の資源を生かした取り組みをされている方々の話を聞いたり、実際に間伐体験や木工クラフト等の体験をしたりする。 ⇒体感を豊かにするために、五感を使った活動を大切にする。 ⇒森林組合や森林マッチングセンター等の山の仕事をされている方々をゲストティーチャーに招き、話をしていただく。	①	②	行動観察 発言 活動シート
	16 17	自分の見つけた「山のすてき」をまとめ、これまでの（2学期）の活動を振り返りながら、学習の足跡を残していく。 ⇒keynote に、ゲストティーチャーの話や体験活動等の中で印象に残った画像を保存しておき、それを活用しながら「山のすてき」をまとめていけるようにする。		③	② ノート 発言 Keynote ロイロノート
	18 19	「しずくのゆくえ」展の準備を開始する。 ⇒1学期に学習した「水生生物調査のまとめ」「zoom での交流内容」も、2学期の学習内容と関連させながら展示する。			
	20 21	「山のすてき」を振り返り、「余呉のすてきをもっと広げていくためにどんなことをしていったらいいか」について考える。			
	22 (本時)	自分の考えた「山のすてきを上げよう大作戦」について、友達と交流し合い、計画を整理する。さらに、友だちや参観者の意見を踏まえて、自分の考えを深める。(本時) ⇒よりよい再構築を目指すために、まず、自分の計画を整理する。そして、友達やゲストティーチャーからの意見を広く聞ける場を設定する。「アドバイスカード」等を用意し、他者からの意見を踏まえて、自分の考えを再構築することにつながるようにする。	③	③ ④	② ③ Keynote 展示物 発言 発表シート 発言 付箋書き込み
	23 24 25	「しずくのゆくえ」展を更に発展させていく。			
26	「しずくのゆくえ」展を開催する。11月24日（学校公開日）				

6 本時の目標（本時：22/26時間目）

- 「余呉のすてきを上げよう大作戦」について自分の考えを深め、確かなものにすることができる。

7 本時の評価規準

- ・「余呉のすてきを広めるためにどんなことをしていくといいか」について、考えを比較したり関連付けたりしながら整理することを通して、理由や根拠を明らかにし、自分の考えを再構築している。
[思考・判断・表現]
- ・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。
[主体的に学習に取り組む態度]

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)
1	本時の課題、「余呉のすてきを上げよう大作戦」について、よごのすてきをもっと広がっていくために、どんなことをしていくといいか考え、学級全体で話し合うことやその進め方を確認する。	・本時のめあてを確認させ、活動の流れの見通しをもたせる。
2	学習を振り返り、「山のよさ」について発表し合い、友達の見つけた良さを知る。 ・防災の役割 ・特産物	・参観者にも分かるように画像等を使いながら、簡単に発表させ「山のよさ」をみんなで確認する。

<ul style="list-style-type: none"> ・間伐 ・山のお仕事 ・水源 ・自然を生かしたしおり <p>3 「余呉のすてきを広げよう大作戦！」について、思考ツールを使いながらグループの友達と交流し、自分の計画を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山の昆虫を紹介する。 ・山の遊び場を設計したい。 ・特産物を作ってみる。 ・特産物を買ってみる。 ・余呉のすてきを発信したい。 ・余呉ツアーの計画を立てる。 ・余呉のパンフレット作りをしたい。 <p>4 「余呉のすてきを広げよう大作戦！」について全体で交流し、ゲストティーチャーからアドバイスをもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木のしおりは、図書室において使ってもらえるといいね。 ・町の図書館にもおいてもらおうよ。 ・余呉のパンフレットを作るのなら、ビジターセンターの方にアドバイスをもらうといいよ。 <p>5 計画をバージョンアップさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスや交流したことを参考に今の自分の「余呉のすてきを広げよう大作戦！」をまとめる。 	<p>☆ipad を活用し、これまでの体験活動の写真や動画、聞き取り調査等のデータをいつでも振り返れるようにしておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山に関わる仕事をされている人々や体験活動を通して感じたことを生かしながら、自分たちにできる作戦を考えるように促す。 ・お互いに意見を出し合い交流する中で、自分の計画を整理することができるように、似た内容のメンバーで話し合いグループを組む。 <p>☆事前に「余呉のすてきを広げよう大作戦」について考える時間をとり、ロイロノートに自分の考えたアイデアを記録し貯めておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>国語科と関連して話し合いを進める時には、視点を示した座標軸上に付箋を貼りながら考える。</u> ☆<u>意見を言う際には、根拠を明らかにして自分の作戦が説明できるように、記録した写真等を活用する。</u> □<u>考えを比較したり関連付けたりしながら整理し、理由や根拠を明らかにしている。(思考・判断・表現)</u> □<u>自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーと事前に打合せをしておく。 ・グループごとの話し合いの足跡が残った座標軸シートを掲示し、みんなで共有する。 ・グループでの話し合いを参観されていたゲストティーチャーからアドバイスをもらう。 ・<u>友達やその他の参観者からは、「アドバイスカード」を書いてもらいシートに貼ってもらう。</u> <p>☆ロイロノートに振り返りを書き提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> □<u>アドバイスや交流をもとに、自分の考えを深め、確かなものになっている。(思考・判断・表現)</u>
--	---